

新居浜市議会 市民との意見交換会 議会フォーラム 2017

開催報告書



平成 29 年 11 月 20 日（月）・ 22 日（水）

新居浜市議会

目 次

	ページ
1 議会フォーラム 2017 の概要	1・2
2 開催結果	<3~35>
11月20日 福祉教育委員会	3~11
11月20日 環境建設委員会	12~18
11月22日 企画総務委員会	19~26
11月22日 市民経済委員会	27~35
3 来場者アンケート調査	
(1) 11月20日	36~39
(2) 11月22日	40~43
4 資料編 (会場ホワイトボード)	44・45

1 新居浜市議会市民との意見交換会「議会フォーラム 2017」の概要

①開催目的

市民との意見交換を通して市民の多様な意見を把握し、政策形成に反映させるため、市民（団体）との意見交換会を開催する。

②開催概要 ※各常任委員会ごとに2日に分けて開催。

日 時 I 平成29年11月20日（月）19時～20時30分（福祉教育、環境建設）
 II 平成29年11月22日（水）19時～20時30分（企画総務、市民経済）
会 場 消防4階 コミュニティ防災センター

③プログラム

11月20日（月） コーディネーター 愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

第一部 福祉教育委員会

参加団体 新居浜市PTA連合会、新居浜市小学校校長会

テーマ「学校の環境整備について」

- ・空調設備の整備促進
- ・トイレ洋式化の整備促進

第二部 環境建設委員会

参加団体 にいはま環境市民会議、新居浜市連合自治会

テーマ「ごみの減量について」

- ・ごみの有料化と自治会の加入促進
- ・ごみの堆肥化

11月22日（水） コーディネーター 愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

第一部 企画総務委員会

参加団体 新居浜南高等学校ユネスコ部

テーマ「新居浜市の未来について ～若者の意見をきく～」

- ・若者の定住促進

第二部 市民経済委員会

参加団体 新居浜商工会議所青年部

テーマ「地域産業を支えるための人材確保と人材育成について」

- ・高齢者等の人材活用

④来場者数 11月20日（月）… 69人

11月22日（水）… 63人

議会フォーラム2017

4つの常任委員会と関係団体との意見交換会



市民の皆さんの多様な意見を把握し、市政に反映させるため、各種団体との意見交換会を行います。参加自由ですので、多くの方のご参加をお待ちしております。



コーディネーター：愛媛大学社会連携推進機構 前田 眞 教授

会場：新居浜市消防庁舎4階 コミュニティ防災センター

新居浜市議会市民との意見交換会

福祉教育・環境建設委員会

日時：11月20日（月）
19時から20時30分

会場：消防庁舎4階コミュニティ防災センター

協議テーマ：

I 学校の環境整備について

- ・空調設備の整備促進
- ・トイレ洋式化の整備促進

新居浜市PTA連合会

新居浜市小学校校長会

II ごみの減量について

- ・ごみの有料化と自治会の加入促進
- ・ごみの堆肥化

にはま環境市民会議

新居浜市連合自治会

企画総務・市民経済委員会

日時：11月22日（水）
19時から20時30分

会場：消防庁舎4階コミュニティ防災センター

協議テーマ：

I 新居浜市の未来について

～若者の意見をきく～

- ・若者の定住促進

新居浜南高等学校ユネスコ部

II 地域産業を支えるための人材確保と

人材育成について

- ・高齢者等の人材活用

新居浜商工会議所青年部

お問い合わせ：新居浜市 議会事務局議事課 0897-65-1321

2 開催結果

議会フォーラム2017は、2日間実施し、合計で132人が参加した。

議会フォーラム2017議事録

日時 平成29年11月20日(月)19時～

場所 消防4階コミュニティ防災センター

■開会挨拶

市議会議員 仙波 憲一



■司会

市議会議員 伊藤 謙司



<第一部 学校の環境整備について>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】 ※敬称略

(福祉教育委員会)

- ・ 永易 英寿議員 (委員長)
- ・ 篠原 茂議員 (副委員長)
- ・ 山本 健十郎議員
- ・ 佐々木 文義議員
- ・ 藤田 豊治議員
- ・ 岩本 和強議員
- ・ 米谷 和之議員

(新居浜市PTA連合会)

- ・ 会 長 藤田 優
- ・ 副会長 秋山 友良
- ・ 事務局長 大西 政年

(新居浜市小学校校長会)

- ・ 金子小学校校長 (会長) 岡野 弥生
- ・ 新居浜小学校校長 篠原 直樹
- ・ 船木小学校校長 菅 知子

フォーラム記録

●永易議員<委員長主旨説明>

近年、猛暑が厳しさを増し、子供たちの体調管理と集中力の維持のためには、教室の空調設備整備が必要不可欠な状況である。しかしながら、本市の普通教室へのエアコン設置率は、1.6%と非常に低い状態であり、早急に取り組むべき課題となっている。また一方、子供たちが家庭で使うトイレは洋式トイレがほとんどである中、現在、市内小中学校のトイレ洋式化率は33%となっており、こちらも早急に解決すべき課題となっている。子供たちの健康の維持管理、また学習効率・意欲の向上のため、良好な学校環境の整備について、現場の声、保護者の声を聞き、皆様とともに考えたいと思う。

○前田教授

今日は、学校の子供たちの成長に必要な環境はどのような環境かということについて意見交換できればよいかと思っている。今の委員長説明について、学校側の皆様のご意見をいただきたい。



●藤田会長（新居浜市PTA連合会）

素朴な疑問をひとつ伺いたい。学校環境の

整備について以前から疑問を持っていたが、以前はトイレの洋式化が前面に出されていたと思うが、近年、エアコンの設置の方が前面に押し出されているように思う。それには何か背景があるのか。

●永易議員

トイレの洋式化は非常に大事なことであるが、近年の暑さもあり、教育委員会の学校現場に対するアンケート調査の結果を見ても、エアコンの設置を望む声が非常に高いということがわかったところである。トイレについても以前から洋式化が十分ではないと言われているため、今回この2つをテーマに選定した。どちらが先かというのは学校現場の状況や皆様の声をお聞きしながら優先順位をつけていかなければいけないと考えている。

●秋山副会長（新居浜市PTA連合会）

エアコン整備の背景がわかり難いのだが、全国的な状況はどうなっているか。また、今後学校の統廃合が進んでいくかと思うが、今回の提案については平成29年度に存在している学校全てが対象なのかということをお伺いしたい。

●永易議員

設置率1.6%と口頭で申し上げたが、愛媛県内では5.9%、全国的には49.6%という高い数値である。ちなみに隣の香川県では、92.3%と非常に高い数値である。近年暑さが増す中、エアコン設置はいろいろな方からの御意見もあり、必要であると感じている。学校の統廃合等もあるが、現状では若

宮小学校以外の学校は全校を対象に考えている。

●大西事務局長（新居浜市PTA連合会）

まず、我々は保護者であるので、子供を中心に考えたいと思うところはある。子供にとって学校とは、生きる力を育む場所であると考えます。学校は子供にとってほとんどの時間を過ごすところであるため、そこで得られることは、子供の成長にすごく大きな作用を及ぼす。その生きる力を3つ挙げるとすれば、1つは確かな学力、次に豊かな人間性、次に健康、体力かと思う。エアコン整備については、夏が非常に暑いため、健康維持には必要なことであると思う反面、そこで子供たちが確かな学力を育てていくためには、先生方の健康も考えなければならない。子供のことだけを考えるのではなく、先生方のことも考え、保護者が何ができるか、地域が一緒になって何ができるかということを考えていかなければならないような時代にきているのではないかというのが自分の考えである。

○前田教授

保護者、地域の皆さんがどのようなことに取り組めるかというような意見も出てきたかと思う。引き続き意見を伺う。

●岡野校長（新居浜市小学校校長会）

エアコンの設置とトイレの洋式化について話し合いの場を設けていただけることを非常にありがたいと思っている。学校としてはどちらが先か、と言われればどちらもしてほしいというのが正直な思いである。先

生方がなぜエアコンを求めるかというところ、ここ数年で本当に暑くなってきたからである。いつも9月に入ると熱中症を気にしなければならない状況である。去年だと9月に暑いと話していたが、今年などは7月から本当に暑くて、子供たちに小まめな水分摂取を呼びかけ、できればお茶を2本持ってくるよう話しているような状況であった。それに加えて学習指導要領の改訂があり、平成32年度から外国語活動が充実され、3年生から6年生までそれぞれ年間35時間プラスとなり、確実に授業時間が1時間ふえることになる。そうになると1週間6時間フルに授業をしなければならない状態が続く。教師にとっては研修の場も必要であるため、できれば水曜日は5時間にしたい、そうすると時数が足りなくなるため、夏休みを短縮して時間にゆとりを持たせることも一つの案かとは考えている。検討中のことではあるが、そういう場合にもエアコンは必要であると感じている。

●篠原校長（新居浜市小学校校長会）

本校の新居浜小学校は、30年ほど前にオープンスクールという最新鋭の設計で校舎を建築したが、これは大変風通しが悪いという弱点を持っている。2階は直射日光により子供たちの教室に熱が降り注ぎ、さらに、普通の校舎であれば北側から海風が入って涼しくなることもあるが、本校については北と南で離れており、午前中から30度を越してしまうこともある。そのようなことから本校としてはエアコン設置を先にしてい

ただきたいと要望してきた。ただ、トイレや他の施設の要望もあると聞いているので、本校だけわがままを言えないと感じてはいるが、それぞれの学校によって困っていることは異なると感じている。本校にとってはエアコンが急務であるが、他校にとってはトイレの洋式化や老朽化への対応が先の場合もある。それぞれの学校により早急に対応してほしい点が少しずつ違っているかもしれないため、学校に合った予算配分や施策をしていただけたらありがたい。

●菅校長（新居浜市小学校校長会）

家庭で使用するトイレは洋式トイレが多いため、和式トイレの使い方の指導はほとんど幼稚園、保育所でしつけていただいて、なんとか小学校では和式トイレが使用できている状態。ただし、使い方が上手ではない子もいるため、低学年の間にしっかり指導していかなければならないのが現実である。そのようなことからトイレの洋式化を考えてくれていることをとてもありがたく感じている。また、エアコンについての現状としては、夏の暑い中、体育の授業をした後、子供たちはすぐに着替えて次の学習に移らなければならないという環境を考えると、学習効率はなかなか上がらないと思う。また、教室に2台の天井扇を設置いただいているが、この天井扇については、練習問題等のプリント学習をする時には、音の関係で切ってしまうことも多々ある。やはりエアコンがあれば大変良いと思う。本校では今年校舎内で熱中症になった児童

もいた。また、学校によっては、建物の形状により雨天の際に窓を開けることができない造りのところもあるため、本校としてもトイレ、エアコンどちらも整備していただきたいが、どちらかというところではエアコンの整備があると大変ありがたいと思っている。

○前田教授

学校の関係者の方の意見を聞くと、窓が開けられない、開けてもうるさいなど暑さの過酷な環境の中で授業を進められているところもあると感じた。先ほど、生きる力という言葉があったが、学力をつけたり、豊かな人間性を身につけたり、健康で育っていくこと、これらを考えると今の環境は余りにも厳しすぎるという御意見が出ているがどう思うか。

●篠原議員

エアコンの件は私も現場の声を聞き、設置していただきたいと思っている。この頃は全家庭にエアコンが設置されている中、学校には設置されていないことをおかしいと感じる。大西さんも言われていたが、学力向上のためにはエアコンが必要ではないかと思う。岡野先生も言われていたが、指導要領の改訂により英語の授業も入ると非常に厳しい授業時数だと思う。もし、台風などで警報が出た場合は学校が休みになるが、その時間を埋めるため6時間の授業時間を7時間にふやしたりしていると聞いているので、夏休みの短縮化なども視野に入れるとするならばエアコンの導入は必要だと思っている。トイレについては、和式トイレを

洋式化することも重要であるが、トイレの
においの問題を教育委員会にお願いする
というような声も聞く。自分たちでトイレの
掃除をすればある程度のおいしは取れる。
自分たちでできることは自分たちでやる、
それを地域を巻き込んでやるということ
を学校も考えて、一緒にやっていけたら
いいと私は思う。

●藤田議員

今日愛媛新聞の地軸を見たところ、ち
ょうど昨日が世界トイレの日だそう
である。学校にトイレがないため、ア
フリカの少女の1割が欠席、退学し、
教育を受けられないとの調査もある。
場所が遠いことで暴行などの命の危
険にもさらされる、とトイレの問題
が記事になっていた。トイレについ
ては、特に体育館施設にトイレがない
が、児童はもちろん文化祭や地域の行
事、地震等の災害発生時の避難所とし
て地域の方がトイレを利用すること
も多いと思う。管理については先ほ
ど篠原議員からも話があったが、地
域、PTAがともに維持管理をする
などし、地域全体で管理するとい
うと思う。エアコンも必要だと思
う。

●岩本議員

このテーマ自体、必要なことである
ため、お金があればやろうということ
である。後は、トイレが先か、エ
アコンが先かそれぞれ学校によ
って違いがあるという話が先ほ
どあったが、基本的には両方やる
べきもので、教育委員会から今
お聞きしているところでは、基本
はエアコンを優先でやろうと

考えているようである。教育長が
来られているので、ひとつお願い
しておきたいが、今校区内に本
屋が1軒もない校区もある。その
観点から言うと、学校の図書室を
きれいにし、図書支援員も配置
する等して、子供たちにしっかりと
本を読んでもらいたい。実際に
本に関心を持った子供たちも
いるが、図書室にも数カ所エ
アコンがない所も見られる。
教育委員会の計画では三、四
年後には全てに整備するよう
であるが、必要に応じて優先
を決める等考えていただけ
たらと思う。

●山本議員

PTAの藤田会長さんから以前は
トイレ優先だったのに今はエ
アコンが優先になっている
との話があったが、先の委員
会で平成33年6月竣工を
目指しているとの聞き、そこ
でもいろいろ議論がなされ
たが、私も個人的にはト
イレを優先するとよいと思
っている。トイレの洋式化
率は現在33%で、整備の
目標値が60%だが、これ
は1億6,000万円くらい
でできることである。先
ほど校長先生方のお話を
聞いたが、現場の声を聞
いて、現在エアコン整備
が優先になっていると思
うが、以前は市長もト
イレが優先という話を
していたこともあるよう
に思う。私は、エ
アコンの整備については
議会が反対しない限り
はこの方針で前を向
いて進んでいくのでは
ないかと思っている
が、トイレは1億6,000
万円で整備できることを
委員会でも申し上げ
たし、今後もその方
向で取り組んでい
きたいと思っている。

○前田教授

今のようなお話を受けて、やろうという雰囲気は盛り上がっているが、いつやるか、それぞれどうやるか、各学校の状況によってエアコンが必要な学校もあれば、トイレの洋式化が必要な学校もあり、違いがあるとの話があったが、その中で、掃除の問題や、地域行事での使用や、避難所での使用など、保護者、地域の人との関わりもあるのではないかということが挙げられていたが、地域の皆さんで関わりが持てたらいいと思う部分や、あるいは、既にこういった部分で関わりを持っているというところがあればお話を聞かせてもらいたい。

●岡野校長（新居浜市小学校校長会）

地域の方で掃除等をしたらよいというありがたい意見をいただいた。確かに子供たちの掃除の仕方にも問題がかなりあり、正直そこにもおおいの原因があると思う。教員も何カ月かに1回は掃除をし、その時はある程度におさまるが、定期的にはやっていないため、その間に汚れてしまう状態が続いている。金子小学校では、PTAが一人一役で運動場や体育館の清掃等の環境整備に協力していただいているが、その中にトイレの清掃も入れてもらえたら、という気持ちはある。実際に西中学校等は一人一役の保護者を配置し、トイレの掃除をしていただいているということも聞いた。いいことだと思う。教職員も、保護者も地域の方も、利用してくれる人が一緒に掃除ができるような環境整備ができたらいと

思う。もう1点、金子小学校の現状で言うと、トイレの数が非常に少ない状況であり、児童数に足りない状況である。3階の6年生の教室は、3年生100人中半分が女子として、50人の女子がたった5個のトイレを使用する状態で、結局、待たなければならぬ状況があり、体育館のトイレも非常に少ないため、避難所になった時にどうなるのだろうかという不安がある。数量も見直していただく必要を感じている。

●米谷議員

教育委員会からいただいた資料の中に新居浜の小中学生約1,000人に対して行ったアンケートの結果があるが、学校でトイレを我慢したのはなぜかという問いに対する答えに、和式が苦手という意見もある。しかし授業中だからという回答はともかくとして、現実的には汚れているから、またそれよりトイレが空いていないという答えが多い。洋式化が今回のテーマになっているが、トイレそのものの整備を進めていく必要があるのではないかと思う。単純に数もふやさなければならないであろうし、汚れがひどい時にはどう対応するのか等トータルでトイレ整備を考えていただきたいと委員会からも教育委員会にお願いしたところである。

○前田教授

トイレの数については、補助をもらっている場合には基準もあると思う。避難所の場合にはすぐには用意されないかもしれないが、仮設トイレなどで対応ができるのではない

かと思う。さっき言ったような地域の方が掃除を手伝ってくれるようなケースもあったが、もっと別の関わり方等はないか。

●篠原校長（新居浜市小学校校長会）

学校には、地域の方や保護者の方に助けられていることが多くある。まず、登下校時の見守り。教職員の少ない本校の場合などは、児童生徒が安全に登下校できているのは地域の方のおかげであると思っている。また、校内での関わりで最近ありがたいと感じていることは、低学年の児童を中心に朝、保護者の方が来て、本を読んでもくれたりする読み聞かせをしていただいていること。本校は大きなオープンスペースがあり、そこで読み聞かせをしてきているが、残念ながら冷暖房がなく、暑い時は暑いまま、寒い時は寒いまま、読み聞かせをしているような状況になっている。そのように地域の方や保護者の方が学校に対して積極的に関わろうとしてくれているのは間違いなく、それに対して私たちは大変ありがたく感じている。また、前任校である神郷小学校においても地域の方がボランティアで学習に参加してくださり、先生となって、いろいろな昔の遊びを教えたり、また総合的な学習における企業でのキャリア教育などを教えていただいている。そのような形で地域の方と関わっていることはたくさんあるが、やはり、地域の方が来てくれているのに、あまり環境がよくない状態では、高齢の方の場合は健康も気になるので、早く整備をしていただけたらと思う。

●篠原議員

新居浜市では今年度からコミュニティ・スクールを導入し、私のところの泉川小学校でも行っている。コミュニティ・スクールは地域と学校が一体となって学校を運営していくため、私も学校によく行き、地域の方もどんどん学校に来てくれている。学校の課題がトイレが臭いということであれば、地域の方が行って清掃し、もちろん子供たちも先生も一緒に清掃する。また、小学校と中学校では防災遠足を行っており、地域の方が食事を作っている。このように地域と学校が一緒にやっていく取り組みをしたら、学校に行きやすいと地域の方は感じ始める。コミュニティ・スクールも地域と学校の関係づくりにはよい方法であると思うためぜひ導入していただきたいと考える。

○前田教授

ほかにならないようであれば会場の方からご意見を聞きたいと思う。

一般からの意見

●星加副会長（新居浜市連合自治会）

エアコンの設置について伺いたいですが、市内の全部の学校に設置した場合、初期費用はどのくらい必要か、また設置後の管理費についてはどのくらいか、そしてその財源はどこから出すのか、試算していればお伺いしたい。

●永易議員

設置方法については、従来の方式で整備す

るのか、P F I 方式にするのか、リース方式にするのかまだ決まっているわけではないが、それぞれ試算ではあるが、設置から13年間の経費としては従来方式だと10億8,900万円、P F I 方式であれば10億9,000万円、リース方式だと18億7,800万円と聞いている。電気代は、幼稚園、小中学校全部で675室あり、全体で5,533万1,000円が年間の見込み額である。あくまで試算であるが1教室あたりは8万1,900円ほどで、月の電気代は6,830円ほどであると報告を受けている。財源はもちろん国庫補助等の活用を考えているがはっきりとした財源の確保ができていないのが現状である。



○前田教授

多くの意見が出てきたが、基本的には必要なことであり、子供たちの健康や成長を守ったり、学力をつけていったりするには、現状の環境はあまりにも過酷なので必要なのではないかという話は皆さん納得できるところだと思う。それをどういった形で進めていくのかということになると、整備した後、それをどう維持していくか、設置が目的ではなく、子供たちがいかに健康で学

力をつけ、人間性をつけていくかということがあくまでも最後の目的である。その実現手段としてエアコン整備やトイレの洋式化があるのだと思う。ストーリーを考えていくと、設置してよかった、で終わりではなく、設置してよい環境になった時に、子供たちがそこでどういう活動をしていくのか、あるいは地域の人たちがどう関わっていくのかという話はある。掃除などの話があったが、環境が整ったことにより地域の人たちが学校に来やすくなり、学校と常に関わっていくような環境が生まれるようになると、地域で子育てということが実現していけるようになるかもしれない。学校に関心を持ってもらい、地域にとって学校はどのような意味があるのか、また学校にとって地域はどのような意味があるのかというのがこれからの新居浜を支えていく人材を育てていく上で重要になると思う。お互いに関心を持ちながらやっていくことができるようになる。できればいい環境で勉強ができればいいというのが今日のお話だったように思う。整備することに異論はないと思うが、地域との関わりも含めて今後こうなればいいという御意見があれば最後にお伺いしたい。

●藤田会長（新居浜市PTA連合会）

お話を伺って、最終的に私が大切だと思うのは、情報共有、それも極力温度差のない情報の共有である。先ほど篠原議員からコミュニティ・スクールの話があったが、例えば泉川地区のようにコミュニティ・スク

ールという取り組みが始まる前から、地域と学校とPTAが取り組み、すばらしい形をとられているところもあれば、正直申し上げて、コミュニティ・スクールって何、という地域もある。その差を私たちは新居浜市PTA連合会として埋めたいと思い、今年度いろいろな取り組みをしているが、どうしても情報の共有、発信源と受け取り側の差はあると思うが、ある程度同じ温度で情報を共有していかないと、結局話し合いを重ねても、一方通行になって物事が前に進まないということがPTAでもよくある。私たちの団体もよく誤解されるが、小中学校の代表というわけではない。私たちは小中学校のPTAと学校、それぞれの活動が円滑に進むためにお手伝いをし、必要な情報を提供し、場合によっては情報を吸い上げる立場にあたりもするが、そういった点を踏まえて、私どもをいい意味で利用していただくともっと有効な意見を提供できたり、学校だけでなく保護者側の生の意見を吸い上げることもできるため、こういった意見交換会はありがたい席ではある。私たちも勉強しなければならないところはあるが、私たちの団体についてご理解いただけたらもっとお役に立てると思うので、今後ともよろしくお願ひしたい。

まとめ

○前田教授

それでは、このエアコンの設置とトイレの洋式化を契機として地域と学校のつながりという形で子供たちを地域で育てる環境が

できればいいということ、なおかつこういう話し合いの機会を定期的に持ち続けていくことが大事である。続くことを祈念しながら一旦終えたいと思う。

議会フォーラム2017議事録

日時 平成29年11月20日(月)19時50分～

場所 消防4階コミュニティ防災センター

<第二部 ごみの減量について>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】※敬称略

(環境建設委員会)

- ・三浦 康司議員(委員長)
- ・田窪 秀道議員(副委員長)
- ・加藤 喜三男議員
- ・岡崎 溥議員
- ・藤田 幸正議員
- ・高塚 広義議員

(新居浜市連合自治会)

- ・会 長 日野 幸彦
- ・副会長 星加 勝一
- ・会 計 西岡 勝彦

(にいはま環境市民会議)

- ・会 長 太田 初
- ・新居浜環境カウンセラー等交流会会長 眞鍋 昌裕
- ・ごみ減量部会長 松田 孝一

■閉会挨拶 市議会副議長 藤原 雅彦

フォーラム記録

●三浦議員〈委員長主旨説明〉

本市の長期総合計画を見ると、人と自然が共生する快適な環境をつくりあげていくために、一人一人が環境への理解や認識を持ち、ごみの減量、リサイクルなど資源を最大限に活用する循環型社会への移行や、地球環境負荷軽減に積極的に取り組むことが求められている。しかし、本市の市民1人当たりのごみ排出量は全国の約1.2倍、リサイクル率は全国より約3%低く、ごみステーションへの不適正排出も多い状況である。今回の意見交換会で、ごみを減らすために何をすればよいかを皆さんと一緒に考えたい。

○前田教授

ごみの排出量をいかに減らすかということが基本的なテーマだと思うが、自治会が抱えているいろんな事情があると思うので、今日来られている皆さんから御意見があれば自由に発言していただきたい。



●日野会長（新居浜市連合自治会）

新居浜市のごみ回収は、ステーション方式で対応しているが、その管理は自治会が担っているのが現状である。しかし、自治会員には負担がかかり、非自治会員のごみの回収に対して大変不公平感を抱いているのが現状である。その対応について皆さん方

にどのような考えを持っているのかについてもお聞きしたいと思う。それと、自治会でごみを問題にするときには、自治会加入率という問題がある。現在、自治会加入率が60%を切ろうとする状況であるので、自治会加入率の点についても話をさせていただきたい。

●星加副会長（新居浜市連合自治会）

ごみの減量化については、有料化という問題も出てくるのではと思うので、これについて議論をしていただけたらと思う。有料化がごみの減量と自治会の加入促進の両方に効果があるかという点、なかなか問題があるのではと思う。自治会長として問題点を何点か挙げさせていただいているが、それらも含めて皆さんの意見を聞かせていただけたらと思う。

●西岡会計（新居浜市連合自治会）

政策懇談会のごみ減量化のワーキンググループにも参加しているが、その内容については太田さんから話があると思う。私は単位自治会長を15年しているが、私が一番取り組んだのはごみ問題で、桜木西自治会でのごみ問題のスタートは、ごみボックスの設置であった。設置するときには、普段ごみを道路に出して二、三時間でなくなるのにそこまでお金をかけてするのかといった反対があつて、とりあえず1台だけ設置した。その反応がよくて、その後1年に五、六台ずつ設置して、現在、自治会内で15台設置されている。道路には出せないで、川にふたをして、50メートル置きに6台設置し管理している。持ち家の方は98%自治会に加入しているが、賃貸の方がなかなか入っていない状況で、ごみと並行して自治会の加入率も、自治会としては重要な課題

であるので、その点からも御意見をいただきたい。

●太田会長（にいほま環境市民会議）

市と協働で行っている環境事業の会長を勤めさせていただいている。また、仕事も産廃の会社を経営している。先ほど西岡さんからも話があったが、政策懇談会のごみ減量化のワーキンググループの座長を務めている。自治会とごみという点では、日野会長を筆頭にお話しをしていただけたらと思うが、私からは環境の面でごみの減量について話をさせていただきたい。

●松田（にいほま環境市民会議）

我々の団体は公民館や産直市で段ボールコンポストの講習会を年間 60 回から 70 回実施している。この講習会の参加者のアンケートでは、段ボールコンポストを使うことで、生ごみが堆肥化され、ごみ出しも楽になり、ごみ減量につながるということで非常に好評であるが、ここ二、三年ほど、段ボールコンポストに新しく取り組まれる方が若干伸び悩んでいる状況である。雑草や剪定くずも堆肥化できないかということで、昨年から自然農園の方と方法を検討している。学校の環境教育の支援活動ということで、今年から小学生、中学生に対して生ごみ堆肥化の講習会をしている。これは来年も続ける予定にしているので、今後いろいろと検討していきたい。

●眞鍋（にいほま環境市民会議）

新居浜市のごみが全国平均に比べて 1.2 倍多いということだが、市民がごみを減らさないといけないという動機づけには、2 割多いというのは強いインパクトがある。新居浜市民は他市と比べて 2 割も高い生活レベルのはずはない。結局ごみはどこかで炭

酸ガスになる。ごみを減らすということは温暖化の防止である。市民の意識に対してそういう訴え方をするのが本質であると思う。とにかく、新居浜市は温暖化のペースが早い。これはごみ問題だけでなく、農地の減少なども影響している。そういう観点からごみ問題を見る必要があると思う。

○前田教授

ごみの減量をどうするかという問題と、自治会の加入率を上げるという 2 つの問題があって、どうつながっていくのかということは、これからも議論を深めていかないといけない部分ではあると思う。ごみボックスの設置で自治会加入率が高まったとか、段ボールコンポストなどがごみ処理の手間を低減させるが新しく取り組まれる方が伸び悩んでいるという話があった。ごみを減らす上でしないといけない考え方を委員の方から意見があればお願いしたい。

●田窪議員

新居浜市のごみの現状についてデータに基づき話をさせていただくと、平成 28 年度は平成 27 年度に比べて若干であるが、ごみの相対数が減ってきている。1 人 1 日当たりの市民が出すごみの量は 1,026 グラム、全国平均が 887 グラム、県が 894 グラムなので、まだまだ全国レベルには届いていない。全国でごみ減量が進んでいる北海道苫小牧市が 550 グラム。そこまでは減量に努めればできるのかなと思う。新居浜市は何年までにこれだけにしましょうという計画を立てていないのが事実だと思う。環境市民会議が段ボールコンポストを使って生ごみを減らす努力をされているが、最終目的の一つは二酸化炭素の削減、温暖化対策につながると思う。生ごみ処理容器の設置補助で

は、配付個数を全世帯数5万7,330世帯で割ったら、電気式は2%、据え置き型や密閉式、電気式全て合わせても約14.7%である。啓発はどうなんだろうということがある。一方、マイバックの普及率が80%近くあるということは、レジ袋の削減などはかなり努力をされていると思う。ごみを有料化するのとは最終的な手段であって、現状のごみを全国レベル以下に下げのためにどうしていくかというのが大事なのではと思う。

●高塚議員

私たちの生活でごみを減量することは、どういふことでプラスになるのかという思いを一人一人が感じるためには親しい人といろいろな話し合いをする意識づけから始めていかないと、市がこうしていくという大きな目標を示すことはもちろんいいが、どうして私たちはこれをしないとイケないのかというところから、話し合いの中でいろいろな考え、具体的にはリデュース、リユース、リサイクルの3R運動があるが、きちんとごみを分別する、生ごみを堆肥化することなどにつながっていくと思う。身近なところで議論できるような場づくりから始めていくことが、一人一人の意識づけをしっかりとさせていくという方向づけができていいのではと私は思う。

●岡崎議員

事業系のごみも含めて各家庭の生ごみで、肥料化、飼料化、メタン化事業を国においていろいろと提案をされていると思うが、生ごみの資源化を市として検討したらどうか。個々も地道な努力をされているが、並行して思い切った対応も考えてみたらと思う。

●加藤議員

自治会の加入率が下がったままなのは、どこに問題があるのかなと思うが、今までの向こう三軒両隣というのがだんだん薄れてきている。何らかの手段で元に戻せるようなことを考えたい。それとごみ減量化は、有料化でごみ袋を皆さんに買っていただくのも一つの手かなと思う。自治会に対して、ごみ袋の配付という話し合いができるのかなと思ふこのテーマとした。有料化ありきではなく、自治会の皆さんの気持ちを一つにできる方法の一つとしてこんなのもどうかというのが、趣旨であるので、その辺を教えていただきたい。

●日野会長（新居浜市連合自治会）

自治会の防犯灯は市民全体に歓迎されるということで、LED化していただいた。西岡さんが言われたようにステーションをつくるには、8万円、9万円のお金がいるが、それは自治会負担である。ごみの回収は行政に責任があると思う。ステーションなどあらゆる費用を自治会員が負担している。そのため、非自治会員とトラブルになるのが現状である。それらの点を含めて、加藤議員が言われたように有料化のテーマが出てきたのではと思う。住んでいる町はきれいにしたい。安全で安心に住みたい。いろいろな費用を出して、その努力を今までしてきた。これだけ自治会員数が減ると、少し待ってくださいというのが自治会の現状ではないかという感じを受ける。非自治会員がそういうことを当たり前のようにされる今のシステムに問題があるのではと思う。自分たちでごみを少しでも少なくしようというのが私たちの考えていることである。議会でもそのようなことをしていただきたい。簡単な問題ではないが、行政のP

Rが少なかったのではないか。これだけ自治会員数が減ると、自治会長のなり手がいないのが現状である。メリット、デメリットのことを非自治会員は言われるが、自治会に入ってメリットはない。自分たちが全部負担をしている。そういう点も含めて、不公平ではないかと思うので、それらも認識していただきたい。行政、議会の積極的な意見、PR、一人一人の認識が大事だと思うので、よろしく願いたい。

●星加副会長（新居浜市連合自治会）

有料化については、ごみ袋は自治会長に配るようになるので、自治会長の仕事はふえると思う。そういったことに対してどう考えていただくのかということと、不法投棄が出た場合どうするのか、非自治会員に対してのごみ袋配付はどうするのか。考えたらいろいろと問題があるので、議会と自治会と問題点を話し合いながら進めていければと思う。

●真鍋（にいほま環境市民会議）

市民が動かないとできない部分がある。自治会は市民団体の中では一番大きな団体である。自分たちのことは自分たちでしょうという常識があったが、世の中がだんだん変わってきて理解されなくなっている。本来市の仕事であるという認識ですと、それに対してそれなりのお金を支払わないといけない。市民活動も市の行政の末端を担っている限り、少額でも払わないといけない。そういった立場で予算化してごみの有料化といった問題とは別に考えないと、これからの行政と市民とのつながりが消えてしまうのではと思う。御支援と御理解をだけでは市民はついてこない。この辺のところを考えていただきたい。



●藤田議員

市民のごみの減量化に対する意識改革について必要なことは、市内で一番大きな団体の自治会、市民の3分の2が自治会員であるので、自治会の力で意識改革に取り組んでいくのがいいのではと思う。水分を少なくする、生ごみはコンポストを使用するなど、自治会の方の力を借りる。当然それに対して、新居浜市も地域コミュニティ活性化事業の中で交付金としていろいろ事業をしている。そういった中にこういったことも含めていろいろ考えたらと思う。少しでも自治会にお渡ししてそれぞれの地域が特色のある地域活動などに取り組んでいただいて会員数をふやすということも一つである。ごみ問題に一番強いのは自治会の方々である。防犯灯については、命に関わることであるので行政がする。ふれあい収集でもシルバーの方をお願いしているが、自治会活動の中で取り組んでいただけたら、補助金を渡しますということでお金で他の自治会活動に使っていただく。地域を支え合うという意識でそれぞれの自治会で取り組んでいただいて、自治会の加入率を少しでも上げていただくのも一つではないかと思う。

●太田会長（にいほま環境市民会議）

自治会の皆さんが言われていることもごもっともだと思う。お金の負担にしても、市議会で議員提案でしっかりと議論していただく問題だと思う。ただ、有料化をしたからといって、ごみの減量化になるかといったら必ずしもそうではないと思う。新居浜市のごみが多いのは確かである。私もごみの収集運搬の会社を経営しているので、皆さんにお聞きしたいが、新居浜市のごみの分別の方法は知っているのか。何種類あって、どういう風に分別したらいいのか、こういうことは、女性がほとんどされると思うので、恐らく男性はほとんどわからないと思う。新居浜市はごみが多い前にリサイクル率が低すぎる。リサイクル率がなぜ低いかということも検討の一つに挙がってくるが、環境のワーキンググループの中でリサイクル率が低いのは古紙で、リサイクルできる古紙とできない古紙があるということをおぼろげにわかっていない方もいる。今、プラスチックをごみに出す際に、きれいに洗わなくてもいいが、軽く汚れがとれる程度にすれば、リサイクルとしてプラスチックごみで出せる。汚れがとれないものは、燃えるごみとして出すというような新居浜市の分別方法であるが、これもどこまできれいであればいいのか、どこまで汚かったら燃えるごみで出したらいいのかというのが、皆さんはわかっていない。分別がきちんとできていないから、リサイクル率が下がる。ごみが多くてもリサイクル率が上がれば、リサイクルで収入を得ることができるので、必ずしもごみが多いということが悪いわけではない。もし、ごみをリサイクルするのであれば、生ごみでは堆肥化、メタン化いろいろある。私もメタン化を会社で考えた時期

もあったが、莫大な費用がかかってくるので難しい。では堆肥化すればという話になるが、愛媛県では堆肥化してもそんなに売れない。県外であれば、堆肥が重要視される場所はある。そういった意味でごみの減量化については、行政がこういった自治体と連携してもっとごみの分別方法を啓発していく、広報していくことが一番初めに大切なことかなと思う。それでもごみが減量できなければ、そのときは有料化でも何でも考えたらいと思う。有料化もごみの減量化の一つの手段だと思う。有料化もいろいろあって、例えば、ごみ袋を有料化する場合もある。西条市が有料化しているが成功しているとは言えない。なぜかという、ごみ袋の枚数を必要以上に配りすぎて、結局は買う人が少ない、余れば、友達関係であげている場合があり、減量化にはつながっていないと思う。そういったところも検証を十分にした上でなければこの問題は簡単には解決しないと思う。その点について議員はどのように考えているのかをお聞きしたい。

●藤田議員

有料化は受益者負担、公平性である。ここまでは市民サービスで、これ以上出す方はごみ袋を買って出してくださいということになる。家庭ごみの持ち込みは無料というのはおかしい。受益者負担の公平のためには、多く出される方には処理費の一部を負担していただく。有料化が減量になるとは思っていない。受益者負担の公平化につながる。それと、生ごみの処理の問題で、事業化して何とかならないかということで、以前商工会議所で取り組んだこともあったが、事業として採算が合わないということ

で、その話は終わったが、いろんな視察先で話を聞いてみても、生ごみを処理してもらうのだから行政がそれなりの補助を行って取り組んでいただかないと成り立たない。

●岡崎議員

厚生年金で生活している方の場合、10年間で20万円年収が減っている。安倍政権になってから5年間に実質賃金が10万円下がっている。最高時からいうと、60万円くらい落ち込んでいる。不安定雇用は20%台が40%台までに上がっている。特に若い人が非常に高い。そういう中で自治会の問題として、自治会員が減って地域の結びつきがなかなかできないという状況も生まれており、ごみの問題も出ている。私も区長を3回したが、ごみの仕事を中心であり大変である。非常に深刻な事態がずっと続いている。自治会活動は地域の包括したお世話をしているわけで、そこに様々な問題が集中してくることは当然だと思う。自治会活動がそれを包括していくためには、今変わらなければならないと思う。もう一つ、ごみ減量で指摘したいのは、事業系のごみは約30%あり、ここにメスを入れる必要がある。事業系ごみは家庭ごみのようにいろいろ混ざったごみとは違って、仕事別のごみが出てくる。しかも大量に出てくる。これは資源化できないはずがない。それをきちんと調査して資源化する。事業系ごみの分別にメスを入れるということでも、大きな効果が得られるのではと思う。

まとめ

○前田教授

昨年からの続きも含めてなかなかごみの問

題は難しい部分がある。今回は、自治会の加入という問題も関わってきていて、どういう風に考えていったらいいかというのもあって、先ほど有料化ありきではないという話もあったが、新居浜市民の暮らし方の提案ということをしていかないと、リサイクル、分別などをきちんとしてからと、ステップを踏んでいかないと、いきなり有料化というのは難しい話だと思う。今までと同じことをしても変わらないと思う。何か新しいやり方を提案して変わっていかないといけないし、市民の意識も何を啓発するのも含めて、考えていかないといけない。ごみを減量化すると同時に自治会の存在価値をいかに高めていくのかということを考えてときに、自治会が市民に向けて啓発していくのか、主要な団体として自治会が関わっていかないといけないのか。これをサポートする環境団体、支援団体の人たちもいるのか、そういう人たち全てが関わっていかないと、うまくいかないのではと思う。目標を決めて年度で取り組もうという話があったが、ここのステップを皆さんで共有して、それを一歩ずつクリアしていかないといけない難しい問題だと思った。ぜひ、目標を決めて、ごみを少なくする、分別やリサイクルしていくことを考えていく機会、場をつくって目標を皆で共有していくようにしていかないといけないのかなと感じながら今日の話し合いを終了したい。

議会フォーラム2017議事録

日時 平成29年11月22日(水)19時～
場所 消防4階コミュニティ防災センター

■開会挨拶 市議会議長 仙波 憲一

■司会 市議会議員 永易 英寿



<第一部 新居浜市の未来について ～若者の意見をきく～>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】※敬称略

(企画総務委員会)

- ・伊藤 謙司議員 (委員長)
- ・近藤 司議員
- ・藤原 雅彦議員
- ・大條 雅久議員
- ・太田 嘉一議員
- ・神野 恭多議員

(新居浜南高校ユネスコ部)

- ・田中 陸矢 (部長)
- ・堤 優弥
- ・松浦 理久
- ・加藤 文音
- ・伊藤 美紀
- ・田村 美羽

フォーラム記録

●伊藤議員<委員長主旨説明>



本市においては、高校卒業者の大多数は市外や県外へ流出している実態があり、若者の減少傾向は、総人口の減少はもとより、少子化の進展に拍車をかける一因となっている。今回の意見交換会では、新居浜に愛着を持ち、主として別子銅山近代化産業遺産の活用と保存に努めている新居浜南高校ユネスコ部の皆さんと、新居浜市の未来についてをテーマに、若者の定住促進等について考えてみたいと思う。

○前田教授

はじめに、県内のユネスコの関係者では知らない人がいないくらい活動されている新居浜南高校ユネスコ部の皆さんに、新居浜のイメージを話してもらいたい。

●田中部長（新居浜南高校ユネスコ部）

新居浜のイメージは工業都市であり、工業が盛んな町である。海のほうには工場が多くあり、ものづくりが盛んだなど小さい頃から漠然と思っていた。高校生になりユネスコ部に入ってから、別子銅山のことを学んで、別子銅山から発展していった工業の町というイメージになった。

●堤部員（新居浜南高校ユネスコ部）

新居浜に持っているイメージは、別子銅山や多喜浜塩田などがある。新居浜には、さまざまな誇れるものがあり、誇りを持てる町である。

●松浦部員（新居浜南高校ユネスコ部）

田中君と一緒に、工業都市のイメージが強い。また学習を通して、別子銅山で栄えた町という印象がある。

●加藤部員（新居浜南高校ユネスコ部）

新居浜のイメージといえば、新居浜太鼓祭りである。別子銅山もあるが、別子銅山については、ユネスコ部に入る前は余り知らなかったもので、小さい子から大人までみんなが参加して市内外からたくさんの方が訪れる太鼓祭りが新居浜のイメージである。

●伊藤部員（新居浜南高校ユネスコ部）

大きくくりであるが、新居浜のイメージはアットホームで、みんなが優しいことである。私は、別子山に住んでいるが、別子山の方々は、優しく、いつも声をかけてくれる。市内の方でも挨拶をしてくれ、アットホームな感じで好きである。

●田村部員（新居浜南高校ユネスコ部）

新居浜で誇れるものは、別子銅山だと思う。別子銅山で、近代化産業遺産として残っているものを見ると、実際に働いていたんだなという気がして、すごく親近感が湧いてくる。

○前田教授

若い人たちの新居浜のイメージはわかったが、大人のイメージはどうであるのか。

●伊藤議員

大人の私たちから見ると、新居浜は住みやすい町だと思うが、遊びに行くところも少ないし、おもしろみがないと大人になって都会を見てくると感じる。田舎という感じを持っている。

●近藤議員

行政視察に行ったときに、新居浜市の紹介では、新居浜太鼓祭りや近代化産業遺産を新居浜の誇りとしてPRしている。ユネスコ部の皆さんの考えているイメージと同じだと思っている。

●藤原議員

新居浜は、ものづくりということで認識している。議員をして十数年になるが、議員になる前となった後ではイメージが大きく変わった。議員になる前の新居浜市のイメージは何もないところだと思っていたが、議員活動をする中で、今までわからなかったことがだんだんわかってきた。今思うことは、新居浜市は素晴らしい市であり、若い子に定住してもらいたいという思いがある。

●大條議員

私の自治会は子供太鼓があるが、山根グラウンドの統一寄せのために手伝いで人を出す必要があり、14年続けて手伝いに行っている。自分でも感動するが、市外、県外の人に来て、涙ぐんで感動してくれる方がいる。山根グラウンドで1万人を超える人々が一瞬静かになって心が一つになり、感動を受ける。そういう場を作れている町はず

ごいなと思う。

●太田議員

高校生の頃は、産業遺産や別子銅山について話せる知識はなかったが、祭りのことは詳しかった。住んでいるので他の町と比べようがなく、住みやすい町かどうかは正直わからない。住みやすい町であるということとは新居浜市に愛情を持っているということでは将来性のある考え方であると思う。

●神野議員

新居浜は、近くに海、山があり、そして歴史や祭りがあって、それが誇れる町である。

○前田教授

若い人たちの意見を聞いていきたいが、テーマを決めたいと思う。ユネスコ部の皆さんは働いた経験がないかもしれないが、例えば働くとしたら、新居浜のいいところはどんなところか、残念なところはどんなところか、また都会で働くとするばいいところはどんなところか、残念なところはどんなところかを発言していただきたい。



●田中部長（新居浜南高校ユネスコ部）

実は、そのことについて、新居浜南高校

の全校生徒350人余りに新居浜で働く上で、いいところ、悪いところ、都会で働く上でいいところ、悪いところ、そして、新居浜に住むにはどういうものが欲しいかというアンケートをとり、それをまとめたので、これから部員が発表する。

●加藤部員（新居浜南高校ユネスコ部）

新居浜で働く上でいい点は、自分の意見として、地元で働ければ、職場に近いし、実家から通えるということゆとりができ、地元で貢献できると思った。アンケートの結果としては、車で通勤できる、地方祭で休みが取りやすい、都会に比べて土地も物価も安いので働きやすいという意見が出た。

●堤部員（新居浜南高校ユネスコ部）

新居浜で働く上で残念なところは、車がないと交通の便が悪くて困るという意見が多かった。工業の町ということで、職場が限られてしまい、女性の働くところが、どうしても少なくなるという意見があった。

●松浦部員（新居浜南高校ユネスコ部）

都会で働く上でいいところは、交通機関がしっかりしており、職種が多い、店舗が多くあり、便利である。あと若い人が多くて、活気があるという意見もあった。

●伊藤部員（新居浜南高校ユネスコ部）

都会で働く上で残念なところは、人が多くて治安が悪く、安心感がないという意見が多かった。ほかには物価が高い、満員電車での通勤が大変、空気が悪いなどのさまざまな意見があった。

●田村部員（新居浜南高校ユネスコ部）

新居浜に定住するためにどうしてほしいかという要望やアイデアについて、一番多かった意見は、イオンのようなショッピングモールをふやしてほしいという意見や、街灯があるのに、街灯の明かりがつかなくて、怖くて帰れないとの意見もあった。私が考えたのは、事故が減少するような道路をつくってほしい。新居浜市民だけ病院代を無料にする、交通機関をふやして、電車やバス、新幹線などをふやしてほしいという意見があった。

○前田教授

こういうことができたらいいなという意見が出たが、意見を聞いて感想はどうか。

●伊藤議員

要望にあった街灯は直しておく。新居浜は都会よりも住みやすい。都会は店舗が多く、若いうちは過ごしやすいが、年をとると新居浜は住みやすい。一度、皆さんは市外に出ると思われるので、そのところも考えてもらったと思う。

●大條議員

皆さん、新居浜のことをよく勉強されているから、自分の住んでいる町に誇りや自信を持つのは、歴史とか過去のことを学んだうえで、今に思いが至ると思う。ずっと私も子どもが帰ってきたくなるまち研究会を十数年前に友だちと始めて、今議員に至っているが、話をしている親御さんの感覚かなと思うことがある。高校生の皆さんに言うのは的外れかもしれないが、日本は毎年8万人行方不明者が出て、3万人近い人が

自殺をする。田舎だから、地方都市だから、リスクがないとは言えない。意見の中で出た安心感が持てる町は大事だと思う。仕事を探したときに一流企業に勤めないとか、大きな企業じゃないとかだと親御さんが考えるともものすごく幅が狭まってしまう。老後の暮らしを考えたときに、新居浜クラスの都市は安心感が持てる子供も親も考えてもらいたいなとずっと思っている。職場だけではなくて文化とか娯楽とかを入れるときに、映画館や劇場はスケールが必要である。そういう意味では、新居浜だけではなくて東予3市、両隣の町を入れると、ボーダーライン上にある町と思っている。これ以上人口を減らしたくないので皆さんと考えていきたい。

○前田教授

新居浜がこうなったらなという意見が出ていたが、既に皆さんは新居浜のことを活性化させる戦力になっていると思うが、してもらえばかりではなく自分はこういうことが新居浜のためにできるかもしれないということはどうなことが考えられるか。

●田中部長（新居浜南高校ユネスコ部）

ユネスコ部で別子銅山産業遺産のボランティアガイドをしているが、高校を卒業してもボランティアガイドを続けていきたい。新居浜市には、観光ツアーがないためか、周りに別子銅山を知っている人がとても少ないのが残念であるため、大人になってもボランティアガイドを続けていけるようになりたい。

●堤部員（新居浜南高校ユネスコ部）

来年から太鼓をかけるようになるので、太鼓祭りに参加して、少しでも地域活性化に役立ちたいと思っている。

●松浦部員（新居浜南高校ユネスコ部）

10年前に、ユネスコ部でガイドブックをつくったが、今年度、新しくリニューアルしようと計画しており、このガイドブックを使って、もっと新居浜市民に別子銅山のことを知ってもらいたい。

●加藤部員（新居浜南高校ユネスコ部）

この春に進学で県外に出る予定であり、働くのも数年は県外で働きたいと思っているが、将来的には、結婚した後、老後などは、新居浜は住みやすい町なので、戻ってきたいと思っている。

●伊藤部員（新居浜南高校ユネスコ部）

若い人に新居浜の魅力を知ってもらうために、SNSなどを使って、別子銅山を始め、別子の素晴らしいところをツイッターでつぶやいてみたり、インスタに上げたりしてみたいと思っている。

●田村部員（新居浜南高校ユネスコ部）

将来的にはボランティア清掃ができればいいなと思っている。花火大会の後などに、ボランティア清掃に参加したことがあるが、毎年ごみがたくさん落ちているので、ゴミゼロにするためには、自分から積極的にボランティアに参加して貢献できればいいなと思っている。

○前田教授

今の話を聞いて大人の側でこんな応援がで

きるのではないか、またこんなことでもらったら、もっといいかなと思うことはあるか。

●近藤議員

非常に頼もしくうれしい。ちょうど、12月議会で山田社宅の跡地を近代化産業遺産のレガシー拠点にしたいということで、住友が所有している社宅を新居浜市に寄贈してもらい、継承していくことや、マイントピア別子や東平は、一つのゾーンとして整備されてきており、このような近代化産業遺産のゾーンをふやして行って、それを周遊できるようなことを考えていきたい。そういうときに活躍の場をつくっていただければと思っている。

●藤原議員

皆さんの意見を聞いて、本当に心洗われる思いである。観光ガイドをつくって皆さんにボランティアとして新居浜市のことを知らせていきたいという方が多くいた。確かに市外の方、県外の方にそういったことを伝えるのも大事であるが、一番新居浜市のことを知らないのは、私は新居浜市民だと思う。できれば皆さんが3年間培ってきた知恵を小学生、中学生といった世代に語り部として伝えていただきたいと思う。恐らく皆さんは、高校に入って、新居浜市のことを勉強されたと思う。小学校の高学年くらいから中学校と、長年、新居浜市のことを勉強すれば、新居浜に愛着が湧く。今回の定住促進につながる一つのキーワードは愛着、どう郷土に愛着を持つかと思うので、

できたらそういった方向性で頑張っていたきたいと思う。

●神野議員

さすがに意識が高いなと思った。加藤さんが進学で県外に行くということで、提案趣旨にも書かれているが、高校卒業後、市外、県外に行くということが、何となく世間的に人口減少の要因、悪いことになっているが、私は、それは間違っていると思う。皆さんは、無限の可能性を秘めていると思うので、どんどん市外、県外に行って、さらに言うと世界で活躍していただいたらと思っている。加藤さんからいつかは新居浜に帰ってきたいという話があり感動したが、いつかは帰っていただければと思っている。新居浜市の誇りを小、中、高で皆さんが学んでいただけたらと思っている。堤君が祭りのことを言っていたが、私も祭りが大好きなので、太鼓台のかき夫の減少が気になっている。私の参加している祭りでも、かき夫が全然集まらなくて困っているので、新居浜の誇る祭りを今後継続するためには、次のステップも考えないといけないと思っているところである。

●大條議員

神野議員が言ったように、町を出ることも人生の中では必要だと思う。愛媛県の平成27年度の数字があるが、大学に進学する人が52%、高校卒業して就職する人が22%、あと約25%は専修学校、専門学校へ行く人で、ほぼ8割近い人が一度外に出る。東京や大阪に出る経験も大事なので、経験され

て、新居浜に帰ってきてほしい。私も、高校を卒業して10年、東京に暮らして帰ってきたが、東京は魅力的でいろいろなことがあるが、ぜひ自分が生まれた町が消えないように皆さんに支えていただきたいと思う。

●伊藤部員（新居浜南高校ユネスコ部）

私の夢は、別子山の活性化に貢献することである。高校を出て、愛媛大学で勉強して、新居浜に帰ってきて何かできたらいいなと思っている。何をしたらいいのか、これから探していきたいと思っている。私も将来新居浜のために頑張りたい。



○前田教授

会場からも意見を聞きたいと思う。

一般からの意見

●男性

東京から帰ってきた人がびっくりしていた。小さいときに新居浜にいて、定年後、ふるさと新居浜へ帰ってきたら、こんなよいところはないと実感したそうである。一度は出ても、ぜひ新居浜のよさを感じて、帰ってきてもらいたい。

まとめ

○前田教授

これからの新居浜の未来について、若い人たちに興味を持ってもらえることはありがたいことだと思う。愛媛大学も愛媛学という愛媛のことを伝える学問を1年生に入ったときからやろうということでやり始めた。大学と自分の下宿を往復するだけで、愛媛のことはあまり知らず関心もないので、外に出ていってしまう。愛媛大学は6割県外から入学してきて、6割が県外に就職し、県内就職者は4割しかいない。やっぱり、学生の皆さんに地元のことをわかってもらうことが大事で、地元の人たちの関わりの中で、自分のやりたいこととか、テーマを見つけてもらえることができたらいいなと思う。そういう意味では、新居浜について、わかること、知ることが大事という意見があった。ユネスコ部の皆さんは、新居浜のことをよくわかっていると思うが、そういう機会をふやさないで地元に関心を持たない。地元学というのが、すごく大事な学問になってくるかなと思う。そういうことをうまくできる環境とか、ノウハウを持つこのような若い人たちの力を活用する場を大人が用意するなど、積み重ねていく。地元への愛着、地元が好きで、外に一旦出たが、戻ってきたいという気持ちになるには、そういうことの積み重ねが大事である。そういう意味では、ここにいるユネスコ部の皆さんのようなロールモデル、機会をいかにふやしていくかというのが、すごく大

事なのかなということを感じながら、今日の話聞かせていただいた。このような環境をつくるのも大人側の責任としてあるので、ここを子供たちだけ頑張れではなくて、大人も一緒に頑張るという場をつくっていくことが大事かなと思う。ぜひ、これからも、これで終わりではなくて、いろいろな意見交換を重ねていながら、そういうことができたらいいなと思う。これで一部の意見交換会を終わる。



議会フォーラム2017議事録

日時 平成29年11月22日(水)19時50分～

場所 消防4階コミュニティ防災センター

<第二部 地域産業を支えるための人材確保と人材育成について>

【コーディネーター】愛媛大学社会連携推進機構：前田 眞 教授

【パネリスト】※敬称略

(市民経済委員会)

- ・豊田 康志議員(委員長)
- ・仙波 憲一議員
- ・真木 増次郎議員
- ・伊藤 優子議員
- ・井谷 幸恵議員

(新居浜商工会議所青年部)

- ・会長 曾根 啓夫
- ・直前会長 河端 信人
- ・副会長 藤田 英治
- ・運営専務 古本 和久
- ・ひとづくり委員会委員長 田中 昌夫

■閉会挨拶 市議会副議長 藤原 雅彦



フォーラム記録

●豊田議員<委員長主旨説明>

本市の活力ある産業活動を持続、発展させる上で、本市で働く人材の確保と育成が大きな鍵となり、本格的な人口減少社会を迎え、労働意欲のある人が活躍できる環境整備が重要になってきている。昨年は、若年層の市外への流出対策をテーマに、若者の雇用対策等について意見交換を行ったが、今回は、高齢者や女性など、様々な人材について、その確保と育成について考えてみたいと思う。

○前田教授

最初に、団体の皆さんから、今どんなことが課題か、困っているかを含めてお話いただければと思う。



●曾根会長（新居浜商工会議所青年部）

イベント企画業を運営しており、週末や夏場などにイベントが立て込み人材の確保が必要となるが、ハローワークを利用した場合、テント設営など現場の力作業のため本当は若い男性の力が欲しいが、女性や比較的高齢な方から問い合わせをいただくケースがあり、実際に欲しい人材が確保しにく

い現状がある。

●河端直前会長（新居浜商工会議所青年部）

建設業関係の仕事をしており、若い働き手が必要だと思っているが、ハローワークで募集してもなかなか応募がない。高校卒業の方を募集したりもするが、小企業なので面接に来られることもなく困っている。

●藤田副会長（新居浜商工会議所青年部）

コンビニを複数経営しており、アルバイトだけでなく正規の雇用が必要となってくる。子育てを終えた女性が当社にマッチするが、一つの店に複数の正規雇用を置くことはかなり負担があるので、その辺をどう乗り越えていくのかが今の課題である。

●古本運営専務（新居浜商工会議所青年部）

金融業、保険業を営んでおり、女性をメインに採用しているが、夫の収入が豊かなのか、扶養の範囲内で仕事をしたいという要望が多く、正規雇用になっても年間収入を抑えたいという要望も出てきて、ビジネスマッチングしていくことが難しい。新居浜では第三次産業の活性化がテーマになるかと思うが、どうしても工業の町で、工業がはやれば第三次産業がはやるだろうという流れになっており、私たちサービス業にとってはつらいところがある。

●田中ひとづくり委員会委員長

（新居浜商工会議所青年部）

IT関係の仕事をしている。こぢんまりした事業所で、業務の特徴なのか、女性と男性の比率は半々である。おとしに採用活動をし、助成金の制度を利用して、地元の

専門学校卒業生に来ていただいたが、育成に関してうまくいかなかったところと、本人の向き不向きの部分もあり、残念な結果になってしまった。引き続き雇用を検討しているが、業務内容的に女性のスタッフでパートタイムの雇用の仕方もあるかと思っている。

○前田教授

働く側の意向として、正規雇用でなくパートがいいということもあるのか。

●田中ひとづくり委員会委員長

(新居浜商工会議所青年部)

あると思う。今、育児休暇中のスタッフが1人おり、子育てが少し落ち着いたらまた仕事をしたいと言ってくれている。正規の雇用よりは時間が自由にできる方がいいという意見があった。

○前田教授

それぞれの業界で少しずつ悩みも違っているようだが、今の話を聞いて、感想も含めて議会側の意見はどうか。

●仙波議員

先ほどハローワークの話が出たが、ハローワークの場合は、どうしても男女雇用機会均等法等により大卒の制限しかできず、事業所にもそういうことを求めるのだろうと感じた。例えば、新居浜市内で人材を確保する窓口としてどういうところがあるか、商工会議所、新居浜市も含めて雇用対策協議会みたいなものをしたりしているが、大卒でこういうミスマッチとか集めにくいとか雇用のコストは理解できても、細かいと

ころで、かゆいところに手が届くようにはできていないのかと感じている。そのあたりの話を、行政としたり、商工会議所でするとか、そういうことがあったのか、お伺いしたい。

○前田教授

解決するために、こういう協議をしたとか、こういう活動をしたとかということはあるのか。

●河端直前会長(新居浜商工会議所青年部)

先ほど、若い人は募集しても来ないと言ったが、事務所の仕事を軽減して、私の仕事の助けにならないかということで、土日祝日休みで9時から15時という条件で事務員を募集すると、ものすごい数の応募があり、主婦がたくさん来られた。その中からいい人材を確保でき、働きたい主婦はたくさんいるのだと感じた。必要なところではなかったが、工夫して採用し、パートなどで全体の仕事を軽減させればいいのかという、これは成功例だが、こういう経験があった。

○前田教授

最近女性の社会進出が結構あるが、建設業の現場では難しいのか。

●河端直前会長(新居浜商工会議所青年部)

女性でも大卒で大手ゼネコンに勤める方もいるし、現場作業もするような時代なので、新居浜でも女性が現場で仕事をするのは全然構わないと思うので、それがパートであってもできないことはない。現場はどうしても年齢制限があるが、現場以外では高齢者でも可能であるので、パートなどで使う

という方法もあると思う。

○前田教授

そのための取り組みで、自社だけでは大変かもしれないが、例えば商工会議所でキャンペーンをするとか、国のキャンペーンに乗っかるというようなことはあるのか。

●曾根会長（新居浜商工会議所青年部）

商工会議所では新居浜市と提携して、合同企業説明会は年に3回とか開催されているが、そこに出席するにしても、コストや労力がかかる。出席している企業は新居浜でも名だたる大企業、4月の新卒で十何名も雇うようなパワーのある企業が多く、どうしても零細企業には参加できない実情がある。

○前田教授

やろうとしても難しい環境が少しあるかと思う。それをいかにサポートしていくのか。新居浜の雇用を掘り起こしたり、マッチングさせたりということが必要なかと思うが、そのあたりの考えはどうか。

●伊藤議員

必要だとは思いますが、女性の場合は特に子育てがあり、子育てしてから働きたいという女性が多かったりする。その辺を理解して雇用すとか、新居浜市ではいろんな助成事業もしているが、それに当たらない場合に、自分の事業所がいかにすばらしいかというアピールをすることも大事ではないかと思う。土日だけとか時間が不規則な場合には、なかなか助成には結びつかないので、そういう点はどのようにしたらいいかは議会や職員とも相談して、どういうことがで

きるのか考えていきたいと思う。

○前田教授

子育てを終えてからではなく、子育て中も働きたいということもあると思う。そのためには環境をつくらないといけない。それは中小企業だけの負担では厳しいものがあり、公的な支援など、潜在的な働きたい人をいかに顕在化させるか、という点についてはどうか。



●真木議員

話が前後するが、最初にいろいろな困難な点を挙げていただいたときに思ったのが、ハローワークを通じての採用には非常に難しい問題があると思うが、最終的な採用権は事業主が持っているので、雇用のミスマッチがあると労働者も不幸だし、事業主も不幸になるので、そこは時間をかけて見きわめていただきたい。女性の採用についても、来年度から配偶者控除の上限がアップするので、労働する女性たちの動きにも若干変化が出てくるのではないかと思う。コンビニに関しては、24時間の営業形態なども踏まえて、非常に経常利益を出しにくい業種だと思っているが、事業主は経常利益

を出して雇用を守るから偉いのであって、そうでなければ事業主としての資格もないと思うので、経常利益を出す形態をつくった上で、社員への還元などが出てくるのではないかと思う。産業振興のさまざまなメニューは、国、県、市、それぞれが揃えているので、商工会議所としてこういうところが使いにくいというのがあれば、議会を窓口にして、私は行政と議会は使いようだと思っているので、自分たちのツールとして議会を使っただけなら、お互いに幸せではないかと思う。

●古本運営専務（新居浜商工会議所青年部）
事業主側から言うと、正規雇用は給料とは別に社会保険料や雇用保険料もあり、実際に人を雇うことに対するコストをものすごく慎重にはかっているが、人材の育成は、3カ月雇ったがやはりだめでした、というわけにはいかないと事業主も思っているし、時間の無駄でもあるので、どうしても人材確保には慎重に時間を割いていく必要はあるが、その中で、今も慎重に見ていったらというお話があったが、ミスマッチで結構時間がかかっており、私は保険業を営んでいるが、広く募集すると、玉掛け2級を持っていると面接に来られて、私は玉掛けがわからなかったの、何か役に立つんだろうかと悩み、後で思えば時間ももったいなかった。先ほど、行政を使ってというお話をいただいたので、もっとストレートにマッチングできる仕組みを、私たち事業主側も提案しながら作り出せていけたらいいな

と思った。

●仙波議員

確かに、ミスマッチが最初からあるというのは相当なロスだと思う。ミスマッチをしないためのことを議員側もお話ししたかったのだろうと思うが、ハローワークだと、どうしても雇用機会均等法などいろいろなことがあるので、そこに行くまでの過程の説明が必要だと思う。新居浜市はおかげさまで求人が1.8くらいあるので、何もしなくても県下で1位だが、それが個々の新居浜の事業主や働きたいと思っている人の役に立っているかには、必ずしもつながらないと思う。今だとSNSなどの媒体があると思うが、そういう部分は、行政のほうも応援できることがあるのではないかと感じているが、そのあたりについての意欲はないか。

●田中ひとづくり委員会委員長

（新居浜商工会議所青年部）

企業側としては、魅力を伝える努力は最低限必要だと思う。どういう形で人材確保するかが問題だと思うが、こういった場でもない限り、自分の狭い領域の中でしか行動や発言ができないので、今日の場合はすごくいいと感じている。

○前田教授

SNSやポータルサイトで人材募集の場をつくっていく、自分たちでこういう人材を募集するというのは、自己責任とする部分が多少あるのかもしれないと思う。あまり労働法は詳しくないが、松山市で22歳から

35歳までの人にアンケート調査をし、5,000人に送って1,000人くらいから返ってきたが、最初に勤めてから3年間で31%くらいが離職している。3年間の枠を外すと、49%くらいが離職している。働くのにいいのはどんなところかと聞いたら、福利厚生は当然だが、地元の企業、そして、自分が成長できる場かどうか、というのが選択の理由にあった。自分の会社にきてくれると、こんなふう to 成長できるとか、こんなふう to やりたいことができるようになるというのが伝えられるかどうか大きいということに、結果から気づいたことがあったが、そういうことの対処はどうか。そういう発信をしていたことはあるか。

●河端直前会長（新居浜商工会議所青年部）
建設業なので、技術職で、自分のスキルアップ、手に職をつけるという仕事になるので、そういうところを外にアピールしたり、入ってきた方に対しては、育成の方法を考えてモチベーションを上げていくことが必要だと感じている。

●井谷議員
先ほど、採用したが育成がうまくいかず、本人の向き不向きもあって残念な結果になったという話があったが、いろいろあったと思うが、やはりコミュニケーション不足もあったのではないかなと思う。その人が何に困っているのか、なぜやめることになったのか、本当の気持ちをじっくりと聞いてあげるといことも大事なことではないかなと思う。もう一点は、どうしてやめること

になったのかについて、それを会社全体の問題として考えるというか、共有化するというのが大事ではないかなと思う。そうすると次のときの教訓になると思う。そういう時間が忙しくてなかなか取れないとも思うが、そういう点はどうだったのか。

●田中ひとづくり委員会委員長

（新居浜商工会議所青年部）

おっしゃるとおりだと思う。社内での意見の共有だが、10人以下の会社で、机を並べて仕事をしているような会社なので、そういった部分での反省、話し合い、当事者本人との会話は、自分たちなりに、頑張っていたつもりではあったが、生かしたいと思う。

○前田教授

潜在的に働きたい人が結構いると感じた。若い人や女性に話がいつているが、高齢者の活用を考えた時に、自分の会社で働いていただくことを考えられるか。御意見があれば伺いたい。

●古本運営専務（新居浜商工会議所青年部）
建設業とか体を使った労働は、先ほど年齢の制限がかかるという話だったが、サービス業には年齢の制限がないので、高齢者の縛りはないと思う。個人的には、むしろ人生の経験値はかなりの職業スキルだと考えているので、もしマッチングが可能であれば、特に工業都市で、高齢者が将来働く先がないのであれば、サービス業に就職されたらいいのではないかなと思う。

○前田教授

ものづくりのスキルを持った人たちが退職したときに、そういう人たちを活用できる場があればいいと思う。四国中央市の紙産業は、会社が組合をつくって、高齢者が働ける組織を立ち上げて雇用している。その会社は規模が大きいので、皆さんにこうしなさいというのは難しいが、そういう場づくりをこれから考える必要があるのではないかと思う。いろんな企業の人たちが、その人たちが持っているスキルを活用していく環境づくりができればいいと思うが、そのあたりはどうか。

●真木議員

非常に難しい。勤労者は若年者から高齢者まで多々あって、最近ではアジアの方の採用などで人材不足を補填している企業も出てきている中で、先ほどの高校生との意見交換でもあったように、高校生の8割くらいは大学とか専門学校に出て行ってしまって、残りの2割を事業所が取り合うような状態で、四国中央市、西条市の東予圏を含めて中予圏まで広げての人材確保が主になってくると思う。新居浜も元気な高齢者がたくさんいるので、そういった働きたい人を全部ひとところに集めるようなシステムをつくった上で、商工会議所などとタイアップした採用が必要ではないかと思う。私自身も大学を卒業して企業に勤めたが、転勤を境にUターンしており、新卒の方が生涯同一企業に勤めるというのは、なかなか定着しないと思うので、そういう状態を議会としても考えていかないといけないと思

っている。

●豊田議員

今までいろいろ団体の方が言われてきたことに対して、一つずつ対応したいと思う。先日、藤田さんのコンビニに買い物に行くと、外国人の方がカウンターで仕事をされていたが、外国人労働者の雇用については、どのようなイメージを持たれているのか。

●藤田副会長（新居浜商工会議所青年部）

日本人の方と同じような研修ではなかなかじめない。外国人はあの方が初めてで、日本人と同じようなスタンスではうまくいかないときがあったが、一步踏み込んだ接し方をして納得してもらえれば、しっかり理解してほかの若い女の子たちよりも正確にできるというイメージがある。

●豊田議員

今後雇用については、高齢者、女性、外国人労働者を含めて考えていかなければいけない気がしている。ハローワークでネックになっている部分については、行政が窓口になって、こういう職種が要る、こういう時間帯で働いてほしい、こういうことを労働条件の中に加味してほしい、というような問診票をつくって、それをハローワークに持って行って添付することはできるかと行政側に聞いたら、できないと言われたので、非常に難しい問題だと思っている。曾根会長から、合同企業説明会は、大手の企業にはメリットがあるが、中小企業にはあまりメリットがないというお話があったが、行政と商工会議所の執行部である親会の

方々がされている事業だと思うが、青年部の方々がそういった意向をお持ちであれば、私どもは行政の下部団体ではないが、商工会議所の青年部の方々と同じ意見を行政側に働きかけて、中小企業の方々が合同企業説明会でもっとアピールできるブースをつくれるような努力をしたいと思っている。青年部の方々はしっかり執行部の方々に働きかけていただいて、今お話を伺っていると、中小企業の方々は非常に魅力的であるし、意欲も持たれているので、そういった部分も合同説明会で発揮できる場を、私たちは今後行政側に働きかけていきたいと思っている。また、合同入社式もその中でできていけばいいと思っている。ただ、今お話を伺っていると、現実的には、優秀な人材が雇用できないという問題が十分わかったし、委員会のメンバーも十分わかっているので、それは今後横のつながりを持ってしっかりと意見を聞きながら、一つ一つ解決できればと思っている。

○前田教授

会場からも意見を聞きたいと思う。

一般からの意見

●田窪議員

昨年市民との意見交換会で市内の高校の校長先生を呼んで、高校生の働き先などいろいろ話をした中で、卒業生の合計は 1,000 人くらいだが、165 人くらいしか新居浜市内で就職しない。高専では 20 人くらいしか市内で就職しない。経済部はそれをふやそう

という取り組みをしていると思うが、経営者側から言えば、ハローワークの件に関しても、賃金や仕事の内容を提示して人を待つという会社もあれば、求人票に社長の顔を入れて、こういう福利厚生でこういう旅行も楽しんでいますとか、一生懸命アピールしている会社もある。給料面や福利厚生面で大きい会社に採られていくことはわかっているが、欲しい人がいれば学校へ出向いて、アピールすることも大切だし、南予の高校生でも新居浜に来たいという人もいると聞く。親としては健康面などが心配だし、経営者側としては住むところを確保する煩わしさもあるが、新居浜市としてもそういうところに着目して、住居の確保や、賄いのある寮をつくるとか、力を入れる必要があると思う。新居浜市の施策では、企業側にはいろいろと奨励金があるが、部屋の補助など従業員に対するものはほとんどない。そういうところを我々も考えていかないといけないし、経営者の皆さんも考えていかないといけないと思った。

まとめ

○前田教授

人材がどんどん不足していく時代に入るのは、目に見えている。そのためにどうやっていくのかというと、潜在的に働きたいと思っている人をいかに顕在化していくのかとか、キーワードとして、女性、高齢者、外国人、障害者が、今盛んに取り沙汰されている。そういう人たちの多様な働き方、

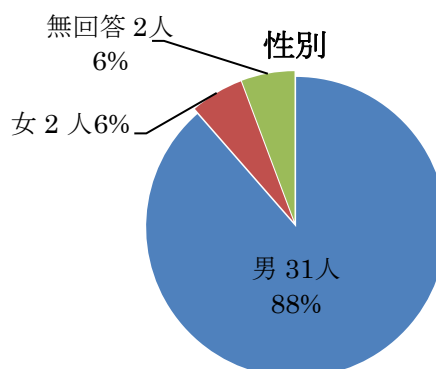
正規雇用ではないあり方、マッチングする中で、お互いが了解できる雇用の形態を模索していくとか、3時間しか働きたくない人には、3時間働ける環境を用意するというような、きめ細かな働く環境づくりがあってもいいと思う。そうするとそこから新居浜モデルみたいな労働モデルが生まれ、新居浜の企業で働くなら、こういう働き方ができるという選択の幅が広がることが一つの魅力になるかもしれないと思った。それから、ハローワークでできないところを補完するためにどうしていくのかという発想があると思う。どうマッチングしていくのか。応援があった方がいいのか、自社で工夫しながらマッチングした方がいいのか、という選択があると思う。一律ではなく、話し合いの中で、自分の企業はこちらを選ぶという選択ができればいいと思った。今日で結論が出るというものではなく、話し合いの中からはいいものを生み出す、今日出たアイデアもブラッシュアップしていく必要があると思う。終始熱心に御議論いただいたことに感謝し、これで意見交換会を終える。

3 (1) 来場者アンケート調査 (11月20日)

■来場者にアンケート調査を実施し、35人(回収率50.7%)から回答を得た。

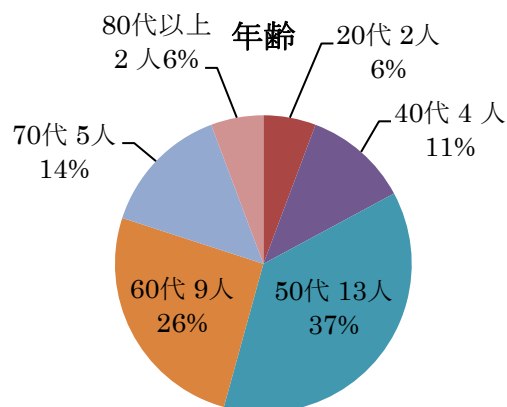
①性別

来場者の性別は男性が31人(88.6%)
女性が2人(5.7%)、無回答2人(5.7%)
となっている。



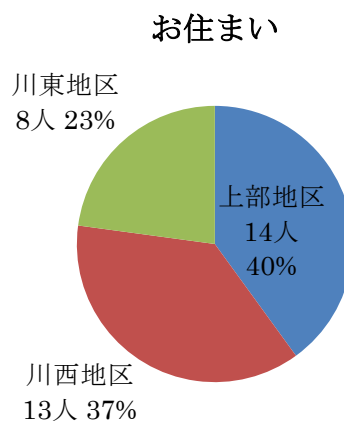
②年齢

来場者の年齢は20代が2人(5.7%)
40代が4人(11.4%)、50代が13人(37.1%)
60代が9人(25.7%)、70代が5人(14.3%)
80代以上が2人(5.7%)となっている。



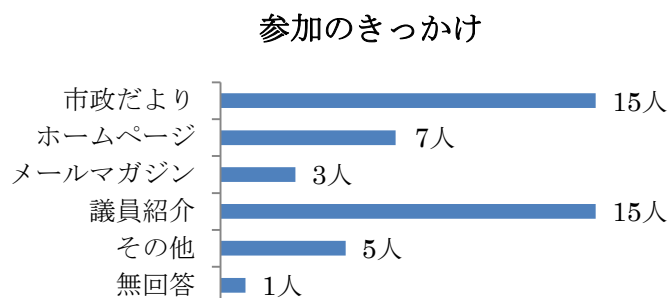
③お住まい

来場者の住まいは上部地区が14人(40.0%)
川西地区が13人(37.1%)、
川東地区が8人(22.9%)となっている。



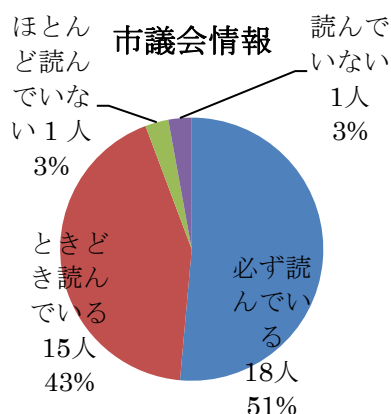
④参加のきっかけ(複数回答)

市政だより15人、議員紹介15人、
ホームページ7人が多数を占めている。



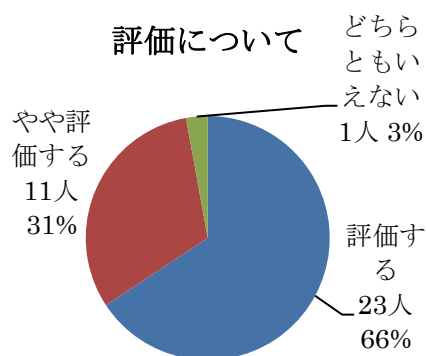
⑤市議会情報

市議会だよりの情報については、必ず読んでいる18人(51.4%)、ときどき読んでいる15人(42.9%)、ほとんど読んでいない1人(2.9%)、読んでいない1人(2.9%)となっている。



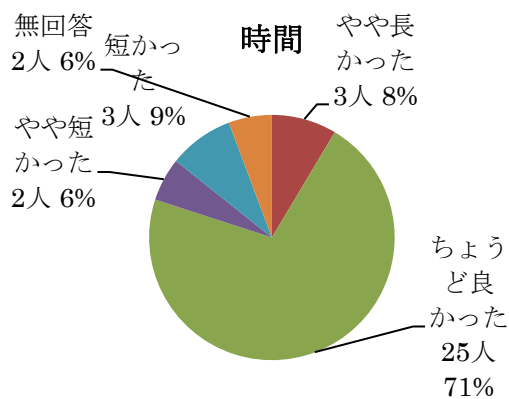
⑥評価について

フォーラム開催の評価については、評価する23人(65.7%)、やや評価する11人(31.4%)をあわせて、ほとんどの参加者が評価していると回答した。



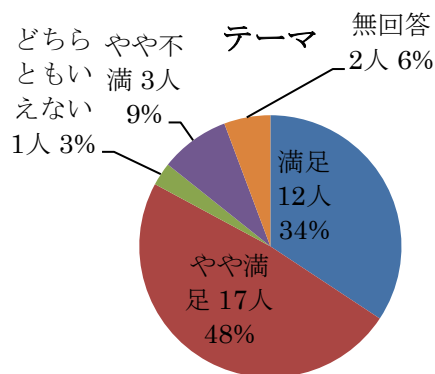
⑦時間について

開催時間については、ちょうど良かったが25人(71.4%)と、7割以上の参加者がちょうど良いと回答した。



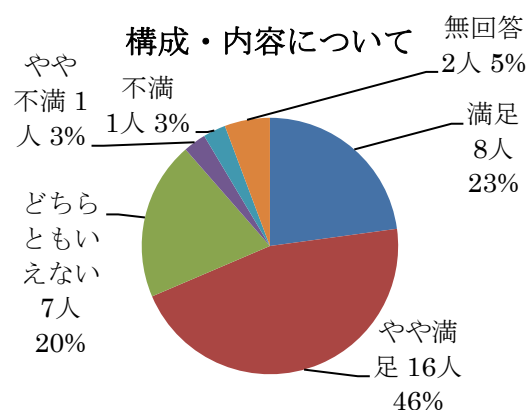
⑧テーマについて

テーマについては、満足12人(34.3%)、やや満足17人(48.6%)をあわせて、8割以上の参加者が満足と回答した。



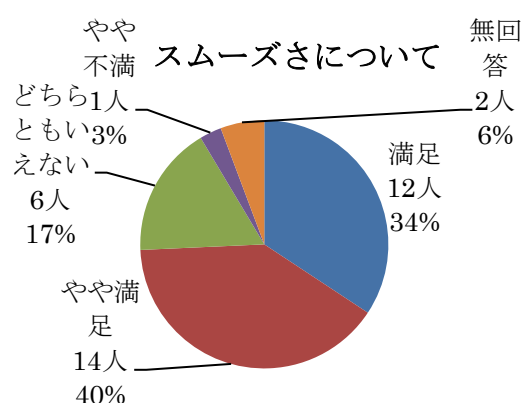
⑨構成・内容について

構成・内容については、満足 8 人 (22.9%)
やや満足 16 人 (45.7%) をあわせて
約 7 割の参加者が満足と回答した。



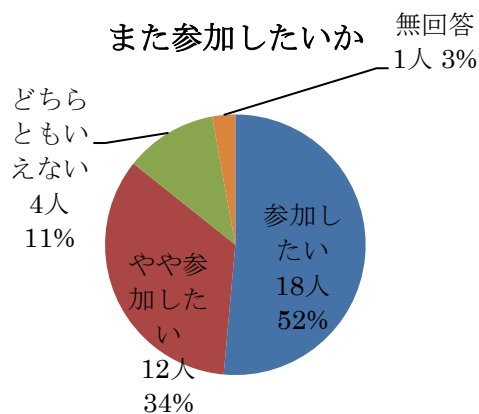
⑩スムーズさについて

会のスムーズさについては、
満足 12 人 (34.3%)
やや満足 14 人 (40.0%) をあわせて
7 割以上の参加者が満足と回答した。



⑪また参加したいかについて

フォーラムにまた参加したいかについては、
参加したい 18 人 (51.4%)
やや参加したい 12 人 (34.3%) とあわせて
8 割以上の参加者が参加したいと回答した。



⑫自由意見

○意見交換の内容をもっと深める必要あり。(70代 男性)

○トイレもエアコンも必要です。教育予算が少ないことが問題です。新居浜の予算はゼネコン予算が優先されている。この暑いのに勉強できない。強い者が予算を取っている。止める。ごみに係わっている女性の参加がないのはおかしい。どうして男ばかりなのか不思議です。

(80代 男性)

○開会の案内をもっと早くしてほしい。(70代 男性)

○開催時間をもう少し早く。(60代 男性)

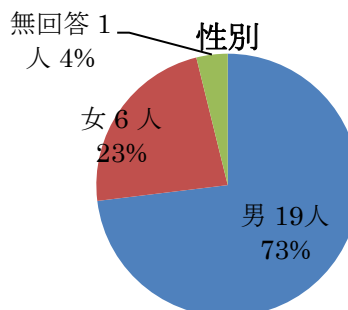
- 会の意見を反映し、議会質問などにつなげて下さい。(40代 男性)
- 議題の掘り下げ、準備が必要だと感じました。(40代 男性)
- 徳島県の上勝町のごみ処理の方法を視察して参加してください。(80代 男性)
- 定期的に実施したい。(70代 男性)
- 次世代を背負う子供達への投資は早くすべき事である。(小学校へのエアコン設置は最重要！)
- 今回のごみ問題は中身が有り大変良かった。(60代 男性)

3 (2) 来場者アンケート調査 (11月22日)

■来場者にアンケート調査を実施し、26人(回収率41.3%)から回答を得た。

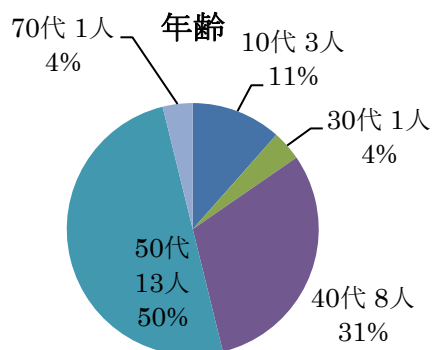
①性別

来場者の性別は男性が19人(73.1%)、女性が6人(23.1%)、無回答1人(3.8%)となっている。



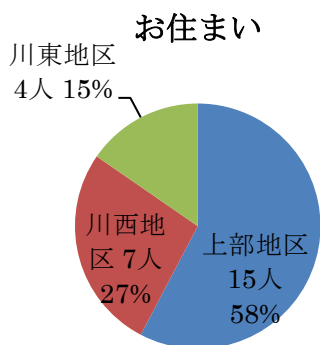
②年齢

来場者の年齢は10代が3人(11.5%)、30代が1人(3.8%)、40代が8人(30.8%)、50代が13人(50.0%)、70代が1人(3.8%)となっている。



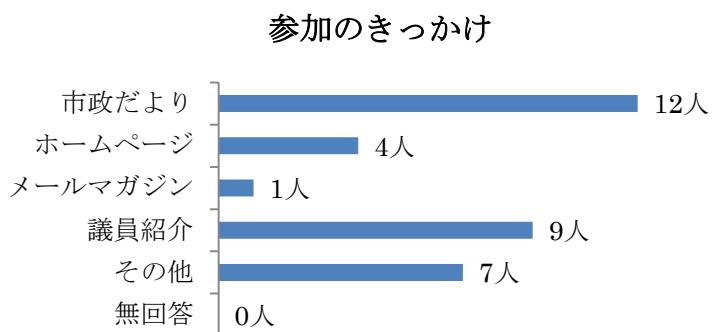
③お住まい

来場者の住まいは上部地区が15人(57.7%)、川西地区が7人(26.9%)、川東地区が4人(15.4%)となっている。



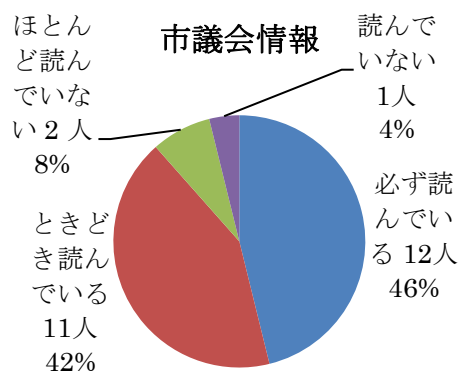
④参加のきっかけ(複数回答)

市政だより12人、議員紹介9人、その他(団体からの要請など)7人が多数を占めている。



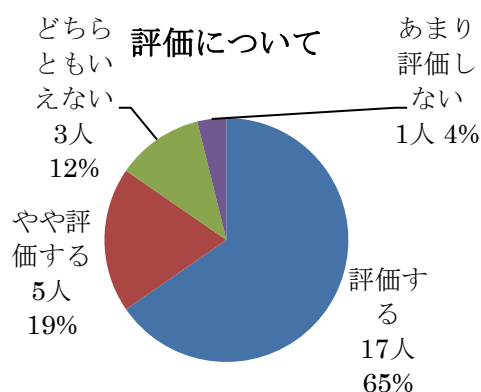
⑤市議会情報

市議会だよりの情報については、必ず読んでいる 12 人 (46.2%)、ときどき読んでいる 11 人 (42.3%)、ほとんど読んでいない 2 人 (7.7%)、読んでいない 1 人 (3.8%) となっている。



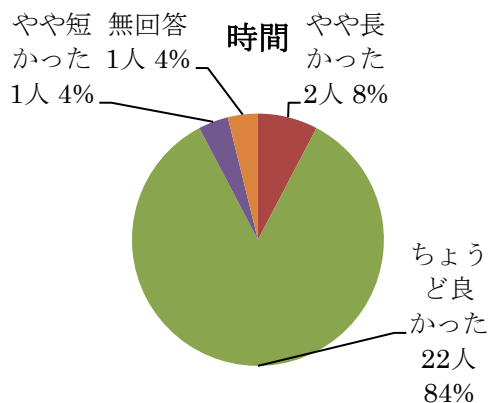
⑥評価について

フォーラム開催の評価については、評価する 17 人 (65.4%) やや評価する 5 人 (19.2%) をあわせて、8 割以上の参加者が評価していると回答した。



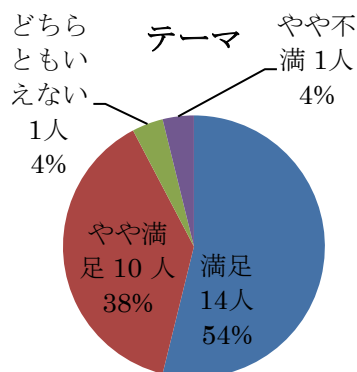
⑦時間について

開催時間については、ちょうど良かったが 22 人 (84.6%) と、8 割以上の参加者がちょうど良いと回答した。



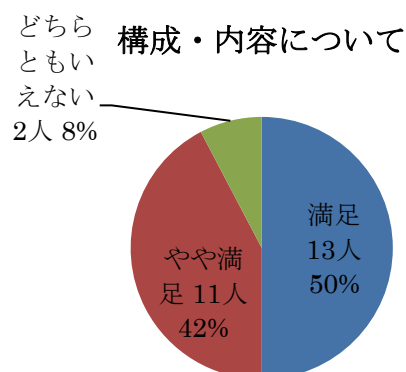
⑧テーマについて

テーマについては、満足 14 人 (53.8%)、やや満足 10 人 (38.5%) をあわせて、9 割以上の参加者が満足と回答した。



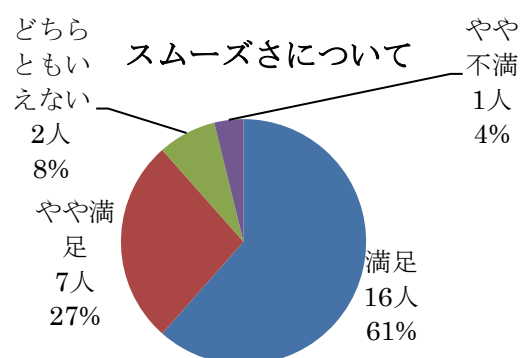
⑨構成・内容について

構成・内容については、満足 13 人（50.0%）
やや満足 11 人（42.3%）をあわせて
9 割以上の参加者が満足と回答した。



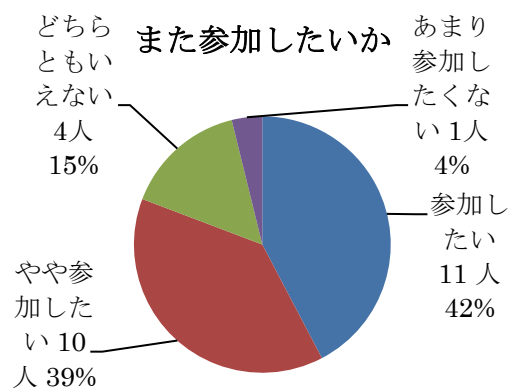
⑩スムーズさについて

会のスムーズさについては、
満足 16 人（61.5%）やや満足 7 人（26.9%）
をあわせて約 9 割の参加者が満足と回答した。



⑪また参加したいかについて

フォーラムにまた参加したいかについては、
参加したい 11 人（42.3%）
やや参加したい 10 人（38.5%）とあわせて
8 割以上の参加者が参加したいと回答した。



⑫自由意見

○様々な立場からの多様な意見をきくことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。（10代 女性）

○南高等学校ユネスコ部は顧問の河野先生のご指導の下今回の会の発言は議員の先生方が必ず実現してくれます。（70代 男性）

○もう少し若者が参加しやすい雰囲気が必要だと思う。（10代 男性）

○高校生（若者）の意見を聞くのは大変良かった。（40代 男性）

○議員さん市の職員のみなさん、要望に対して「前例がない」という理由だけで新しい「行動」

をつぶさないでほしい。ほんとうによいか悪いか意味がないかを判断してほしい。

(50代 男性)

○南校生の若い意見やアイデアに感心しました。次回もパネラーとして参加してほしいです。

(50代 男性)

新居浜市議会市民との意見交換会 議会フォーラム 2017



新居浜市議会市民との意見交換会
議会フォーラム 2017 開催報告書

平成 29 年度

平成 29 年 12 月作成

新居浜市議会事務局

電話 0897-65-1321 (直通)

FAX 0897-65-1322